

しりべしツーリズムサポートニュース



Vol.84

平成 27 年 2 月

スマホでの「後志道路情報」投稿画像の設定について

iPhone での画像アップ不都合が修正されました！



赤丸で囲った『設定』をクリックすると設定ログイン画面になります。アップロード出来る画像サイズを 500px になるようしてください。
マメに道路情報アップ頂いている黒松内、寿都、積丹さんありがとうございます。今後とも宜しくお願いします！

北九州市が取り組み始めた“モノづくり産業と歴史を活かした産業観光の推進”



4年前に立上げ、スタッフは3名でスタート。1/21小樽商工会議所で担当部長、中川恵介氏から経緯と取り組みについてお話を伺いましたので内容をお知らせ致しますね～

北九州市は人口 96 万人、小樽の 2 倍ほどの面積で産業都市として 100 年の歴史があるそうです。写真は北九州発展のシンボル「1901」と呼ばれ、八幡製鐵所の高炉だそうです。北海道の炭鉱、立坑のシンボルと似ています。「北九州市へいらしたことがありますか？」と尋ねると「市」というより

エリアとしてイメージされることが多く、「別府へ行ったことがありますよ～」などと答えられることが多いそう。

しかし筑豊炭田の石炭、中国からの鉄鉱石輸入に適した港湾を持つことから、1901年(明治34年)官営八幡製鐵所として開設され、四大工業都市の1つとして発展したそうです。

しかし高齢化比率は高く、北九州市活性策として地域資源を生かした交流人口の増加による賑わいづくりに4年前から取組んだそうです。工業都市の歴史として鉄鋼、機械、科学、電機などモノづくり工場群が多く有り、(便器のTOTO、ロボットの安川電機、シャボン玉せっけん、日産自動車 etc、etc・・・最近ではエコ関連(リサイクル、再生エネルギー、住宅)などの企業も増えているそうです。

工場の高い煙突をライトアップ(一般公募で付いた名称が『アイアンタワー』)し、“工場夜景”クルージングや赤々とした溶鉱炉(映画、ターミネーターのシーンが浮かびます(笑))

は24時間稼働、3交代制となっていたことから労働者の憩いの場でもあった立ち飲み屋“角打ち”(北海道なら“もっきり屋”でしょうか)が、住民との触れ合いの場として観光客に人気スポットとなり、工場夜景見学、角打ち体験が夜型観光となり宿泊へとつながっている。

産業観光推進の体制づくりを重視し進めたことから、観光団体共同事務所を作り、ベンチャー企業の育成・支援、ホームページの開設、産業観光ガイド・夜景ガイドの育成、まずは市民に体験してもらう産業観光ツアーの実施など着実に成長し、大企業のみならず中小企業も含めた54のモノづくり企業が見学先として協力している。戦後復興を支えた八幡製鐵所が6月に世界遺産登録となるかな?なるだろう!!きっと!!!

中川氏の話聞いて、よくある委員会立上げから産業観光推進室の設置、議論、思考にとどまらず観光団体を含めた共同事務所を作り、起動的な推進体制を作ったことが今後、産業観光取組みの成功地域として注目されて行くことだろうと思います。

「取り組むべき課題」とは企業・関係団体の協力、推進体制の構築、人材育成、広報強化、魅力的ツアー企画としめくくられていました。

【編集後記】



(左) 島牧村のドラゴンウォーターの噴出し口です。味はホントに炭酸水なんです!でも美味しいものではありませんでした。(右) 賀老の滝、雪解け時期ともなると赤い線、目一杯の幅となるそうです。私が立つ所までしぶきが飛んでくるそう。手つかずの自然豊かで山、海、滝にしても一つ一つのスケールが大きいな~と思う島牧です。龍神伝説もありますが、滝上にはひょっとして千年以上前の龍神の化石が清流の中に静かに横たわっているかもしれない。。と思えるほどの静寂と神秘さがあります。(i)